

富山大学は、全国の先駆事例を調査・研究したうえで、北陸地区における地域活性化の推進に一石を投じるとともに、学金協働による地域振興の我が国の先駆けとなることを目指し、平成23年3月に富山銀行と「銀行職員の派遣研修に関する協定書」を締結し、翌4月より地域連携推進員として研修職員を受け入れています。また、地域とともに学び成長することでの地域活性化モデルをさらに深化させるべく、かねてから協働関係を構築してきた魚津市より、民間等共同研究員を受け入れ、将来の魚津を支える産業＝産業人育成システムづくりを目指す共同研究を実施しています。

産学官金連携の新たな展開への挑戦

学金協働による地域活性化を目指して

地域金融機関が人事交流を介した連携による地域活性化を企図する取り組みは、単なる「連携」や「協力」という形式ではなく、これまでの領域から、共に汗をかく「協働」による地域活性化へと深化し、産学官金連携における金融に求められる役割は日々大きくなっています。

富山大学では全国の先駆事例を調査・研究したうえで、北陸地区における地域活性化の推進に一石を投じるとともに、学金協働による地域振興の我が国の先駆けとなることを目指し、平成23年3月に富山銀行と「銀行職員の派遣研修に関する協定書」を締結し、翌4月より地域連携推進員として研修職員を受け入れています。



職員派遣研修に関する協定調印式での頭取との意見交換

富山大学と富山銀行は、平成16年に本学初の寄附講義の実施、平成17年に「包括的連携協力に関する覚書」を締結する等、これまでも教育・研究・地域貢献の幅広い分野で学金連携事業を展開してきましたが、産学官金連携体制の充実による地域活性化と地域再生人材の育成を目指す富山大学と富山県内を営業基盤とする銀行として特色ある独自の地域密着型金融の深化を目指す富山銀行の思惑が一致し、全国的にも稀な、北陸地区では初となる金融機関職員の大学常駐派遣が実現しました。

特別講義、定期的なゼミナール、先駆事例調査

民間等共同研究員の受け入れによる共同研究の実施

富山大学は、地域とともに学び成長することでの地域活性化モデルをさらに深化させるべく、かねてから協働関係を構築してきた魚津市より、民間等共同研究員を受け入れ、将来の魚津を支える産業＝産業人育成システムづくりを目指す共同研究を実施しています。

民間等共同研究員の活動は、特別講義（地域システム特論）にて、地域づくりの最前線の理論や事例を学ぶとともに、金融機関から派遣されている地域連携推進員や民間等共同研究員が参加する定期ゼミにて、魚津での産業＝産業人育成への地域システムづくりに向けた計画ゴールと戦略・戦術構築への検討を積み重ね、地域活性化に向けてどのようなプレイヤーに参画を求め、プレイヤーにはどのような行動を求めるのか、さらには当該プロジェクトの展開によりどのようなアウトプットを求めるかを究明しました。



先駆的研究者との意見交換の姿

これらの検討は4ヶ月（20限）を超えるもので、さらには地域づくりの最前線にヒアリング調査も実施しました。

産業政策としての地域人材育成としての実証実験

魚津三太郎塾の展開

地元金融機関には、魚津三太郎塾の人材育成システムへの参画を要請し、協力機関としての確固たる連携関係を構築しました。関係機関・関係団体には中長期的視点から、バックアップ機関としての協力を要請しています。

魚津市と富山大学は、連携関係をさらに強化するために、包括連携協定を締結し、富山大学長・魚津市長が参画するプロジェクトとして、両組織が全勢力を賭けた体制構築に向けての基盤形勢を行いました。



塾生の公募にも奮迅しました。金融機関から紹介を受けた塾生候補には個別説明を加えながら、公募により塾生候補者を集め、塾生自身の意欲と出身企業のバックアップを受けることが出来るかを見極めた結果として、農業、林業、製造、環境、小売、飲食、印刷、建設、金融、会計サービス、水族館等の幅広い分野から塾生が参加しました。

魚津三太郎塾第1期のテーマは、魚津の地域資源＝水循環と設定し、地域課題と企業課題に共通価値を見出し、自企業の強みを活かしたビジネス手法により環境と経済の両立する新たな地域活性化プロジェクトの立案に挑戦しました。



魚津三太郎塾第一期は、大学教師陣、民間企業経営者の方々を講師として迎え、延べ12日間18時限の講義・演習・ゼミナールと多様な形態のカリキュラムを展開しました。結果として、当初の想定を超えるプロジェクトが塾生から提案され、塾生企業内の活性化はもとより提案型企業への脱皮を試行した事例や、塾生同士、さらには塾生外との新たな協働体制構築に取り組む事例など、魚津の企業に新風を吹き込んでいます。



地域連携推進員の役割と活動

本学と魚津市が共同開催する地域再生塾「魚津三太郎塾」では、民間等共同研究員である市職員と議論・検討を重ね、ビジネス手法による地域課題の解決と地域再生人材育成を実現する地域金融機関同士が連携して事業協力を行う新たな地域活性化プロジェクトを企画・立案するとともに、運営において銀行で培った金融の視点やネットワークを活用した支援を実践する等、産学官金連携システムづくりに貢献しました。



一方で、常駐派遣で蓄積した大学連携ノウハウを活用し、富山銀行と芸術文化学部とタイアップし、学生を対象とした新通帳デザイン・コンペティションを自ら企画・立案・運営して実施し、学金連携による地域活性化のアウトプットを導き出しました。



富山銀行新通帳デザイン・コンペティション表彰式